

6. 沖縄の主要果樹の動向

ここでは、国内で沖縄県での収穫量が最も多い作物（パインアップル、シークワーサー、マンゴー）について、その動向を記載する。

（１） パインアップル

沖縄県のパインアップルの生産量は2011年までは減少傾向にあったが、その後、微増している。また、近年の産出額は15億円前後であり（図6-1）、県の農業産出額全体の約1.5%を占める¹⁾。加工用は、パイン缶詰の輸入自由化に伴い、関税割当てが行われてきているが、取引価格が安いこと、生産農家の高齢化等を背景に、出荷量は減少している。一方で、生食用は、加工用より高単価で取引され、2000年代初頭から、出荷量が加工用を上回っており、流通時の生食用の単価は、200～300円/kgで推移している（図6-2）。



沖縄県の主な育成品種としては、N67-10、ソフトタッチ（ピーチパイン）、サマーゴールド、ゴールドバレル、ジュリオスター、沖農P17（サンドルチェ）がある²⁾。また、沖縄県の拠点産地として東村、石垣市、竹富町が認定されている³⁾。なお、東村や本部町ではゴールドバレルの生産に力を入れており、大玉で糖度の高い特選品が高値で販売されている。全国の輸入量は、15万t程度で推移しているが、輸入額は年々増加している。（図6-3）。

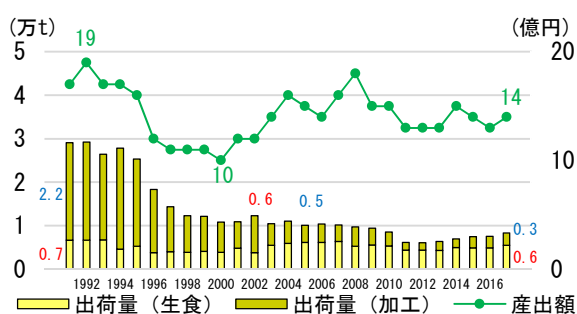


図6-1 沖縄県のパインアップルの出荷量及び産出額の推移⁴⁾
※赤字は生食用、青字は加工用の出荷量を示す。

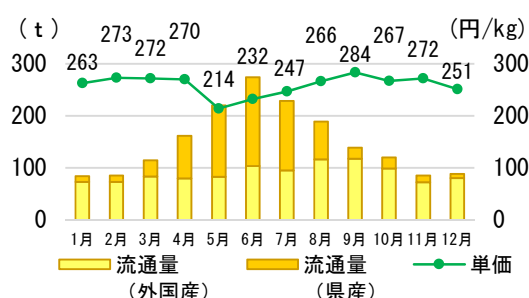


図6-2 沖縄県中央卸売市場におけるパインアップルの流通量及び単価の推移⁵⁾

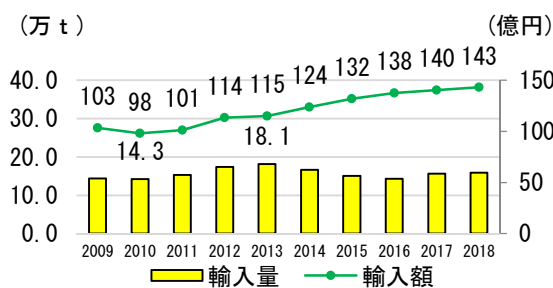
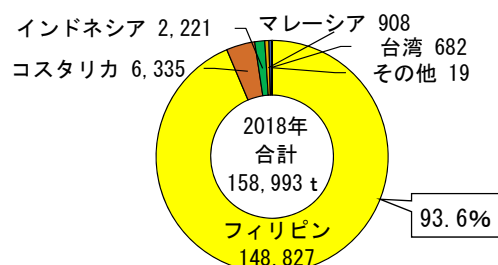


図6-3 全国のパインアップルの輸入量及び輸入先⁶⁾



¹⁾ 農林水産省. 果樹生産出荷統計.

²⁾ 沖縄県農業研究センター. 育成品種 パインアップル <<https://www.pref.okinawa.jp/arc/cn34/pg284.html>>

³⁾ 沖縄県農林水産部. 沖縄県農林水産業振興計画

⁴⁾ 農林水産省. 農林水産統計

⁵⁾ 沖縄県農林水産部中央卸売市場. 市場年報

⁶⁾ 財務省. 貿易統計 輸入統計品目表 パイナップル（生鮮のもの）

(2) シークワーサー

沖縄県のシークワーサーの収穫量は近年、3,000～4,000 tで推移しており、年間の総販売金額は約3～8億円程度である（図6-4）。なお、愛媛県、鹿児島県でも生産が確認されている。主に生果より加工用として販売され、搾汁がジュースとなる。



その豊富な機能性成分について2000年にマスコミに報道されると、注目されブームとなり、本島北部を中心に新植が行われた¹⁾。しかし、2005年頃に販売単価がピークを迎え、その後下落し、近年は100～200円/kg程度で推移している（図6-5）。新植された木は、ブームの数年後に成木となり、生産量が急激に増加したため、消費拡大の更なる取組みが課題となっている。一方、加工品を輸出する県内企業もあることから、今後は、有用成分等を活かした商品開発や販路拡大が期待される²⁾。沖縄県における主な育成品種は、大宜味クガニー、勝山クガニー、伊豆味クガニー、カーアチー、仲本シードレスがある³⁾。特に、2009年に品種登録された仲本シードレスは種がないため、生鮮用として高値で取引されている。また、酸度が低いので、一般的な品種では1月以降となる生食用出荷を、12月から開始できる⁴⁾。沖縄県における拠点産地として大宜味村、名護市、本部町が認定されている⁵⁾。

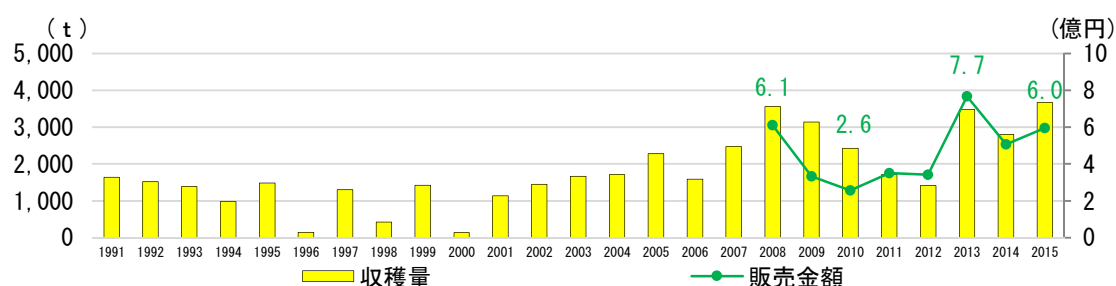


図 6-4 沖縄県のシークワーサーの収穫量及び販売金額の推移⁶⁾

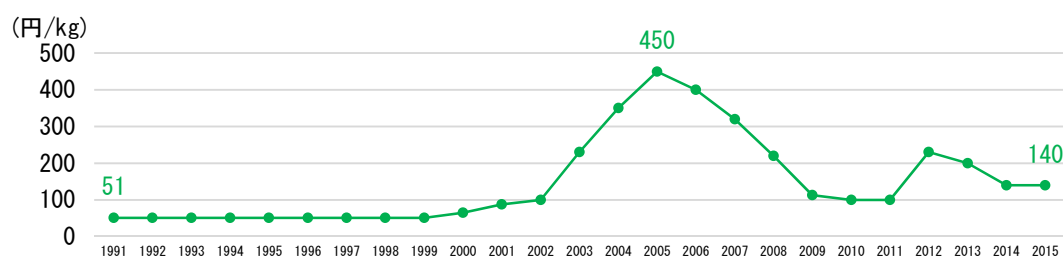


図 6-5 加工用シークワーサーの単価の推移⁷⁾

¹⁾ 相原貴之ら（2010）. ブーム後のシークワーサー生産および商品展開のデザイン. 農林業問題研究第178号. pp. 63-68

²⁾ 農林水産省. 農林水産物・食品の輸出取組事例（平成28年度版）沖縄.
http://www.maff.go.jp/j/shokusan/export/torikumi_zirei/zirei_2016.html

³⁾ 広瀬直人（2012）. シークワーサーの特性と新規用途開発. 日本食品科学工学会誌第59巻第7号. pp. 363-368

⁴⁾ 目取真要ら（2011）. 無核シークワーサー「仲本シードレス」の特性. 沖縄県農業研究センター研究報告第5号. pp. 5-10

⁵⁾ 沖縄県農林水産部. 沖縄県農林水産業振興計画

⁶⁾ 沖縄県農林水産部. 沖縄県の園芸・流通 ※シークワーサーは産出額ではなく、販売金額が公表されている。

⁷⁾ 内閣府沖縄総合事務局農林水産部、JA等へのヒアリングによる

(3) マンゴー

沖縄県のマンゴーの収穫量はおおむね 1,500～2,000 t で推移しており、産出額は 20 億円程度である(図 6-6、図 6-7)。沖縄県における流通時の単価は、約 600～2,700 円/kg とその流通量の推移に応じて大きく変化する(図 6-8)。なお、主要 3 県において、宮崎県の収穫量は沖縄県の半分程度であるが、産出額は 2007 年以降、沖縄県を超えており、約 2.5 倍となっている(図 6-6、図 6-7)。宮崎県産は「太陽のタマゴ」に代表されるように、厳格な品質基準や、生産者、J A、行政の連携による生産・流通体制の強化等のブランド化が図られていることから市場での評価が高い(東京都中央卸売市場での年平均取扱単価：宮崎県産 3,386 円/kg、沖縄県産 1,333 円/kg)¹⁾。



沖縄県における主な品種は早生品種アーウィン種だが、新品種として、収穫時期がより遅いリペンスや、バレンシアプライドが沖縄県により、それぞれ「夏小紅」、「ていらら」として商標登録されている。沖縄県の拠点産地として、豊見城市、宮古島市、糸満市など、10 市町村が認定されている²⁾。全国の輸入量は、メキシコ、タイ、台湾等から 6,000～7,000 t 程度となっている(図 6-9)。

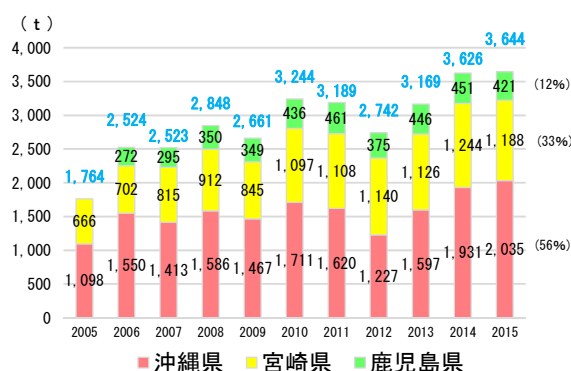


図 6-6 主要 3 県のマンゴーの収穫量の推移³⁾
※青字は 3 県の収穫量の合計を示す。

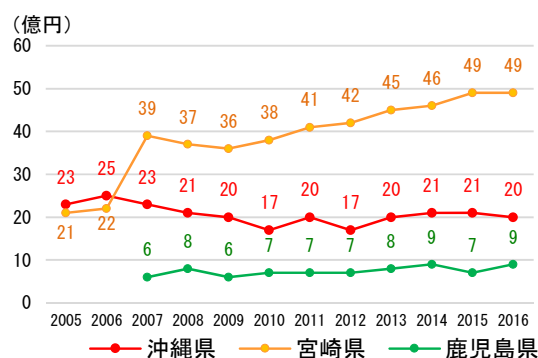


図 6-7 主要 3 県のマンゴーの産出額の推移⁴⁾

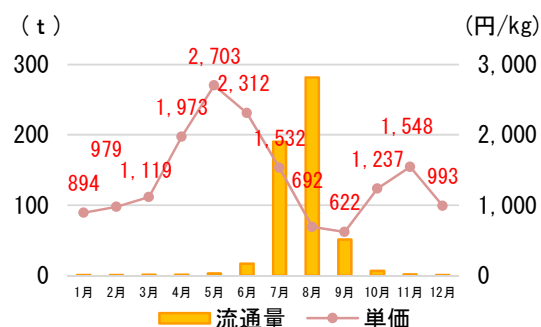


図 6-8 沖縄県中央卸売市場におけるマンゴーの流通量及び単価の推移⁵⁾

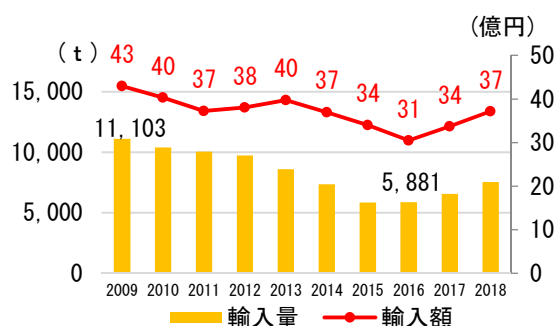


図 6-9 全国のマンゴーの輸入量⁶⁾

¹⁾ 論壇－宮崎産トップブランドの理由－. 琉球新報. 2018 年 10 月 8 日

²⁾ 沖縄県農林水産部. 沖縄県農林水産業振興計画

³⁾ 農林水産省. 特産果樹生産動態等調査

⁴⁾ 農林水産省. 生産農業所得統計

⁵⁾ 沖縄県農林水産部中央卸売市場. 市場年報

⁶⁾ 財務省. 貿易統計 ※なお、輸出に関しては、品目コード上、単独での集計ができないため除外した。